PRESS RELEASE（報道関係者各位）

2026年11月11日

2026年 中堅・中小企業におけるグループウェア/Web会議/情報共有ツールの動向

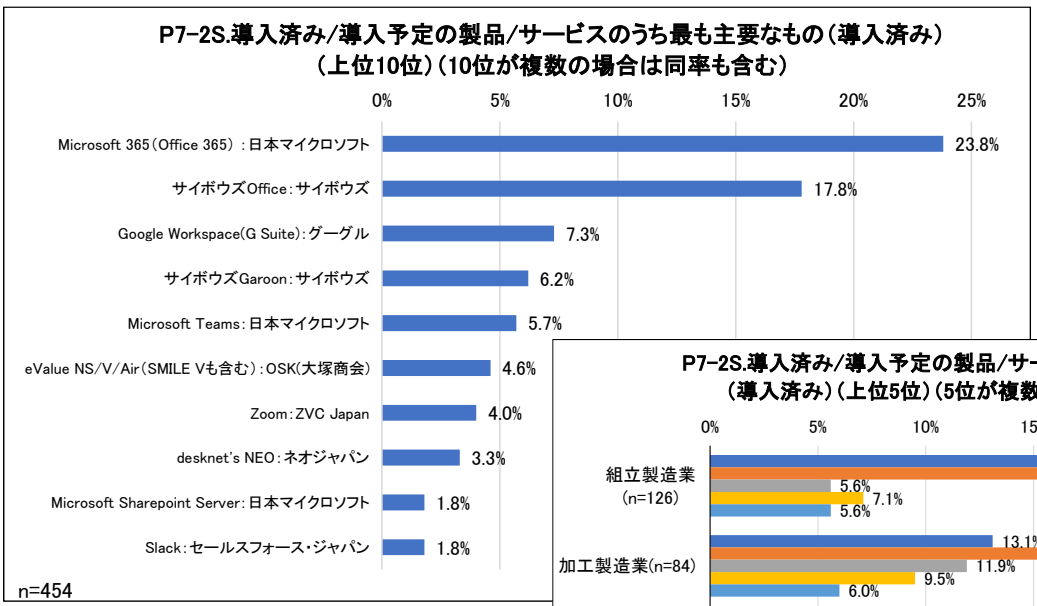
調査設計/分析/執筆：岩上由高
ノークリサーチ（本社〒160-0022東京都新宿区新宿2-13-10武蔵野ビル5階23号室　代表：伊嶋謙二 TEL：03-5361-7880
URL：www.norkresearch.co.jp）は中堅・中小企業におけるグループウェア、Web会議、情報共有ツールなどの最新動向に関する調査結果を発表した。本リリースは「2026年版 中堅・中小企業のITアプリケーション利用実態と評価レポート」のコラボレーションの分野に関するサンプル/ダイジェストである。

＜業種/業態による違いも踏まえて、情報を共有/流通させる基盤として市場を捉えることが重要＞
■今後は業種/業態を踏まえた活用提案が重要、業種別に見た社数シェアデータにも要注目
■競合の製品/サービスで評価の高い項目はどれか？その背景にある機能は何か？を知る
■AIによる資料/文書を生成、品質担保、整理/管理する役割分担を意識しておくことが大切

調査時期：　2026年7月～8月
対象企業：　日本全国、全業種の年商500億円未満の中堅・中小企業1300社（有効回答件数、1社1レコード）
対象職責：　情報システムの導入や運用/管理または製品/サービスの選定/決裁の権限を有する職責
詳細については右記の調査レポート案内を参照：　https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2026itapp_rep.pdf

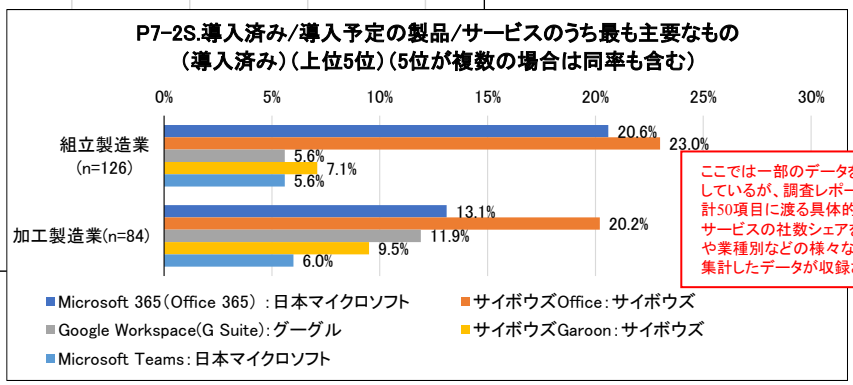
今後は業種/業態を踏まえた活用提案が重要、業種別に見た社数シェアデータにも要注目

本リリースの元となる調査レポート「2026年版 中堅・中小企業のITアプリケーション利用実態と評価レポート」では、計10分野に渡る業務システムのシェアや評価を網羅的に集計/分析している。以下のグラフは、その中から「コラボレーション」分野における最も主要な導入済み製品/サービスの上位10位を中堅・中小企業全体で集計した結果を抜粋したものだ。コラボレーション分野には グループウェア、Web会議、ビジネスチャット、プロジェクト管理、タスク管理といった社内外のコミュニケーションを担う様々なツールが含まれる。（調査対象となった製品/サービスの具体名は本リリース4ページを参照）



出典：2026年版 中堅・中小企業のITアプリケーション利用実態と評価レポート（ノークリサーチ）

左記のグラフを見ると、Microsoft 365が首位、サイボウズOfficeが2位、3位以降は1割未満で多くの製品/サービスがシェアを分け合う状態となっている。グループウェアやWeb会議に加えて、Slackのような新しいツールがIT企業だけでなく、ユーザ企業でも見られる点が昨今の特徴的な傾向だ。



ここでは一部のデータを抜粋しているが、調査レポートには計50項目に渡る具体的な製品/サービスの社数シェアを年商別や業種別などの様々な観点で集計したデータが収録されている

業務効率を着実に改善するためには、コラボレーション分野のツールを他の分野と連携させながら現場業務の情報やデータを円滑に共有/流通させる取り組みが不可欠だ。旧来、コラボレーション分野のツールは業種依存度が低いとされる面もあったが昨今は業種や業態を踏まえた活用提案が重要となっている。実際、上記のグラフが示すように同じ製造業であっても組立製造業と加工製造業ではシェア上位に位置する製品/サービスの導入済み割合には差がある。調査レポートには年商、業種、地域、従業員数、IT管理/運用の人員体制など、様々な観点で集計した導入済み/導入予定の社数シェアデータが収録されている。

競合の製品/サービスで評価の高い項目はどれか？その背景にある機能は何か？を知る

本リリースの元となる調査レポートでは、中堅・中小のユーザ企業がグループウェア/Web会議/ビジネスチャット/プロジェクト管理/タスク管理の製品/サービスにおいて、どのような機能/特徴を高く評価しているか？について、以下のような選択肢を列挙して集計/分析を行っている。

P7-6A.「コラボレーション」製品/サービスに関して評価/満足している機能や特徴

<<AIを用いた文書や文面の作成に関する項目>>
・メールやWeb会議の文書情報をAIが自動で要約/共有してくれる
・ヒトが作成した文書やメールをAIが自動で校閲/添削してくれる
・データを 元にAIが文書（マニュアルなど）を自動作成してくれる
・社内規定などを元にAIが従業員からの質問に応答してくれる

<<AIを用いたメールやチャットの効率化に関する項目>>
・チャットで 要点を伝えると、AIがメール文面を自動作成してくれる
・多数のメールやチャットからAIが重要なものだけを選んでくれる
・受信したメール本文の内容を1通ずつAIが要約してくれる
・メールに添付されたファイルの内容をAIが要約してくれる
・関連する複数のメール内容をAIが1つに要約してくれる

<<AIを用いたWeb会議の効率化に関する項目>>
・Web会議の内容を音声認識して、AIが文書で要約してくれる
・Web会議の内容を元にAIが要約された動画を作成してくれる
・Web会議でAIがリアルタイムの翻訳/文字起こしをしてくれる
・検索語を 与えると、会議動画の該当箇所をAIが示してくれる

<<AIを用いたスケジュールやToDoの管理に関する項目>>
・参加者を指定すると、社内会議の日程をAIが調整してくれる
・社外の参加者も含めたWeb会議日程をAIが調整してくれる
・メール内容などを元にAIがToDoリストを 自動作成してくれる

<<システム連携に関する項目>>
・他のシステムで登録したスケジュール情報を自動で同期できる
・他のシステムと連携して、個人毎に独自のツールを作成できる
・メールやWeb会議の内容をプロジェクトやToDoと紐付けられる
・単体の製品/サービスで要件が満たされている
・SaaSの組み合わせで要件が満たされている

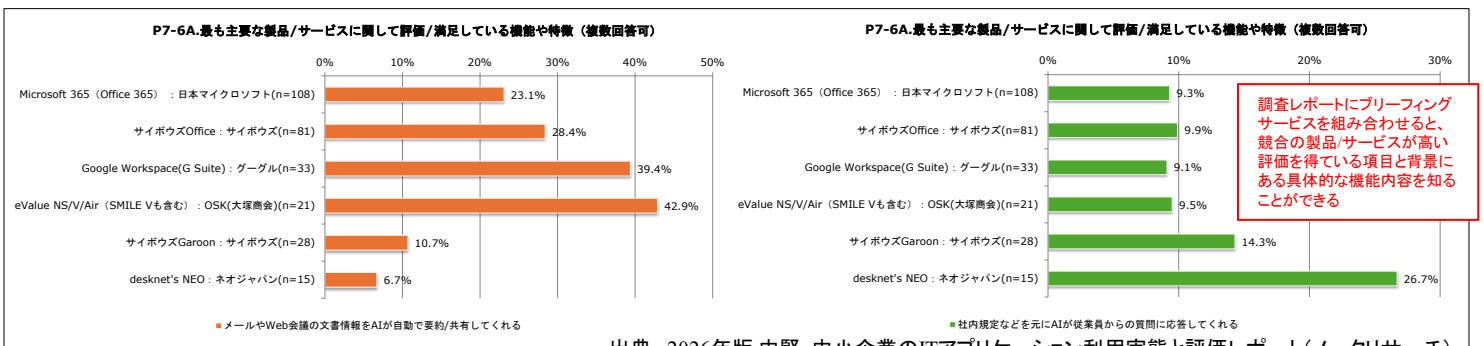
<<システム形態に関する項目>>
・パッケージとSaaSを選択/併用できる
・ブラウザのみで全ての機能を利用できる

<<その他>>
・その他：
・評価/満足している機能や特徴は全くない（排他）

上記に列挙された項目にはAI関連の機能/特徴も豊富に盛り込まれている。調査レポートでは、「ユーザ企業から高い評価を得やすい機能や特徴はどれか？」を年商別や業種別などの様々な属性別に確認することができる。

また、調査レポートには製品/サービス別（正確には本リリース4ページで※の付いたもの）に上記の評価項目を集計したデータも収録されている。このデータを参照すれば、「競合の製品/サービスがどのような評価を受けているのか？」などを把握できる。

さらに、ノークリサーチのアナリストが個別のニーズに応じて調査レポートのデータを深堀して解説する「ブリーフィングサービス」を併用すると、競合の製品/サービスが高い評価を受けている背景に関する考察なども得ることができる。例えば、以下の2つのグラフはシェア上位のグループウェア製品/サービスにおける「メールやWeb会議の文書情報をAIが自動で要約/共有してくれる」と「社内規定などを元にAIが従業員からの質問に応答してくれる」の値を調査レポートから抜粋したものだ。



出典：2026年版 中堅・中小企業のITアプリケーション利用実態と評価レポート（ノークリサーチ）

AIによる要約/共有では「Google Workspace」や「eValue」の評価が比較的高い。実際、前者では選択した文章を即座に要約する機能、後者では検索結果を要約する「スマート検索」機能など、使い勝手の良い要約機能が備わっている。一方「AIによる質問応答」では「desknet's NEO」の評価が高い。この点では「neoAI Chat」と連携したAIアシスタントが関連する機能として挙げられる。このように「ブリーフィングサービス」では調査レポートのデータを元に一歩踏み込んだ解説も行っている。また、こうした評価項目は文書管理・オンラインストレージサービスの分野とも重複するが、調査レポートでは両者の役割分担のポイントについても解説/提言を述べている。（次頁へ続く）

AIによる資料/文書を生成、品質担保、整理/管理する役割分担を意識しておくことが大切

さらに、本リリースの元となる調査レポートでは中堅・中小のユーザ企業がグループウェア/Web会議/ビジネスチャット/プロジェクト管理/タスク管理の製品/サービスにおいて、どのような課題を抱えているのか？についても、以下の項目を列挙して集計/分析を行っている。

P7-6B.「コラボレーション」製品/サービスにおいて抱えている課題

<<文書や文面の作成に関する課題>>
・メールやWeb会議の文書情報を要約/共有するのが大変
・資料やメール文面に誤字などが多く、訂正するのが大変
・データを 元に文書（マニュアルなど）を作成するのが大変
・社内規定などに関する従業員からの問い合わせが多い

<<メールやチャットに関する課題>>
・資料やメール文面を上手く書けずに、手が止まってしまう
・メールやチャットが多く、目を通すだけでも時間がかかる
・メール本文の要点/要旨を素早く読み取ることができない
・メールに添付されたファイルの内容を確認するのが大変
・複数のメールを辿って、全体の流れを把握するのが大変

<<Web会議に関する課題>>
・Web会議の会話内容を議事録などにまとめる作業が大変
・Web会議内容を文書化するだけでは臨場感が伝わらない
・Web会議中にリアルタイムで翻訳/文字起こしができない
・キーワードを 元にWeb会議の必要なシーンを探し出せない

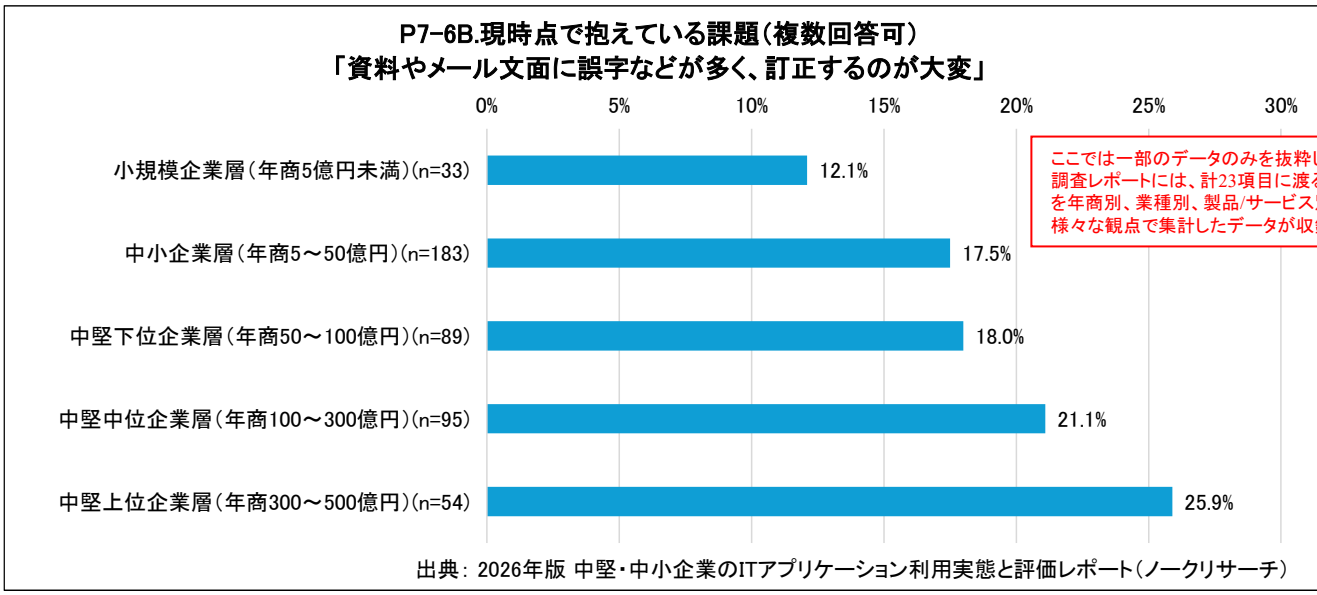
<<スケジュールやToDoの管理に関する課題>>
・社内会議において日程を調整する作業が面倒である
・社外の参加者も含めたWeb会議日程の調整が大変
・ToDoリストを 手作業で作成/管理するのが手間である

<<システム連携に関する課題>>
・スケジュールに関する情報が複数のシステムに散在している
・手軽で便利な他のツールも色々あるが、それらと連携できない
・プロジェクト/ToDoのツールでメールやWeb会議を確認できない
・単体の製品/サービスに依存するのは避けたい
・SaaSの組み合わせでは要件を満たせない

<<システム形態に関する課題>>
・パッケージとSaaSを 選択/併用できない
・ブラウザのみでは一部の機能しか利用できない

<<その他>>
・その他：
・課題は全くない（排他）

以下のグラフは上記に列挙された課題項目のうちで、「資料やメール文面に誤字などが多く、訂正するのが大変」という課題の回答割合を年商規模別に集計した結果を調査レポートから抜粋したものだ。



昨今ではヒトが作成した資料や文章だけでなく、AIの生成結果を確認/訂正することの業務負担も考慮に入れておく必要がある。上記のグラフが示すように、そうした課題を抱える割合は年商規模が大きくなるにつれて高くなっている。AI活用が進んでいくと、会計、販売、人事給与、ワークフロー、文書管理など、様々なアプリ分野でAIによる資料や文書の生成が行われるようになる。ただし、それらの品質を担保し、どのように整理/管理するか？については全体を俯瞰した視点を持つ必要がある。調査レポートでは、ユーザ企業が抱える課題やニーズを分析し、各アプリ分野がAI活用において主に担うべき役割は何か？についても提言を述べている。（次頁以降では、調査レポートの案内などを掲載している）

補記：社数シェア集計/分析の対象となっている「コラボレーション」製品/サービスの一覧

本調査において選択肢に記載した「コラボレーション」製品/サービスの一覧は以下の通り。選択肢に掲載される製品/サービスは過去の調査結果や最新の市場状況などを踏まえた上で選定される。自由回答の中で多く挙げられたものは選択肢として新たに取り上げ、逆に一定期間以上シェア数値がないものは割愛するといった方針で年毎に調整を行っている。製品/サービス毎の評価や導入費用の集計/分析はサンプル件数が一定以上の条件（件数が少ない場合は参考値扱いとなるケースもある）を満たした（※）のみが対象となる。（次頁では、調査レポートの詳細を案内している）

<<グループウェア>>
サイボウズOffice：サイボウズ（※）
Microsoft 365（Office 365）：日本マイクロソフト（※）
desknet's NEO：ネオジャパン（※）
サイボウズGaroon：サイボウズ（※）
Google Workspace(G Suite)：グーグル（※）
HCL Notes/Domino：HCL Software（※）
eValue NS/V/Air（SMILE Vも含む）：OSK(大塚商会)（※）
J-MOTTO：リスモン・ビジネス・ポータル（※）
アルファオフィス：大塚商会（※）
Microsoft Sharepoint Server：日本マイクロソフト（※）
intra-mart Accel Collaboration：イントラマート（※）
StarOffice/OfficeForce：NEC（※）
INSUITE：ドリーム・アーツ
HUE ArielAirOne：ワークスアプリケーションズ
POWER EGG：ディサークル
Global Portal：パナソニックデジタル
NI Collabo 360：NIコンサルティング（※）
クロジカ（aipo）：TOWN
Knowledge Suite：ブルーテック（ナレッジスイート）
mitoco：テラスカイ（※）
Zoho Connect：ゾーホージャパン
GroupSession：日本トータルシステム
OfficeView：Knowlbo(ナルボ)
FlexBASE：G.FLEX
<<プロジェクト管理/ナレッジ管理/社外情報共有など>>
Notion：Notion Labs
NotePM：プロジェクト・モード
Backlog：ヌーラボ
Redmine：オープンソースプロジェクト
Jira/Trello/Confluence：アトラシアン
Qast：any
CommuRing：ユニリタ
<<ビジネスチャット/Web会議>>
Microsoft Teams：日本マイクロソフト（※）
Zoom：ZVC Japan（※）
Google Meet/Chat：グーグル（※）
Webex：シスコシステムズ
Slack：セールスフォース・ジャパン（※）
DiSCUS/InCircle：ブルーテック（AI CROSS）
Chatwork：kubell（Chatwork）（※）
LINE WORKS：LINE WORKS（ワークスモバイルジャパン）（※）
LiveOn：ジャパンメディアシステム
bellFace：ベルフェイスシステム
どこでもSHOWBY：かんざし
RemoteView：RSUPPORT
TeamViewer：TeamViewer
ChatLuck：ネオジャパン
WowTalk：キングソフト（ワウテック）
CYBERCHAT：サイバーソリューションズ
ovice：oVice
FACEHUB：FacePeer
MetaMoJi Share for Business：MetaMoJi
<<その他>>
その他の製品/サービス：
ERP/基幹系システムの一機能として利用
独自開発システム

本リリースの元となる調査レポート

2026年版 中堅・中小企業のITアプリケーション利用実態と評価レポート

1300社（1社1レコード）のユーザ企業データから、ITアプリ市場の現状と今後を読み解く

「ベンダが売りたいもの」ではなく、「ユーザ企業が選んでいるもの & 求めているもの」は何かを把握

- 新規導入やリプレースが見込まれる分野は？具体的な製品/サービスは？
- ユーザ企業は何を評価し、何に不満があり、何を求めているか？を知りたい
- 年商別、業種別、地域別などの多様な切り口で定量的な実データが見たい
- 自社が想定するITアプリ分野、顧客層、課題/ニーズは正しいかを検証したい

計10分野に渡る業務アプリ製品/サービスの導入社数シェアとユーザ評価を網羅

P1.ERP　P2.生産管理　P3.会計管理　P4.販売・仕入・在庫管理
P5.給与・人事・勤怠・就業管理　P6.ワークフロー・ビジネスプロセス管理
P7.コラボレーション（グループウェア/Web会議/ビジネスチャット/プロジェクト管理/タスク管理）
P8.CRM（SFA、メール配信/共有、MA、名刺管理）　P9.BI（ビジネスインテリジェンス、帳票）
P10.文書管理・オンラインストレージサービス

導入率調査やベンダ取材調査では得られない、ユーザ企業が抱える生の課題とニーズ

- 各分野における製品/サービスの導入済み & 導入予定の社数シェア
- 分野間で比較可能な価格、機能、開発元、販売元に関する評価概況
- 各分野における導入済み/導入予定の運用形態(オンプレ/クラウド etc)
- 各分野における導入済み/導入予定の端末形態（PC/タブレット etc）
- 各分野の導入済みユーザ企業が実際に拠出した導入費用（万円）
- 導入済みユーザ企業が評価/満足している分野毎の機能および特徴
- 導入済みユーザ企業が現時点で抱えている分野毎の課題
- 導入済み/導入予定のユーザ企業が望む分野毎の機能および特徴

全分野の全設問について年商、業種、従業員数、地域、IT管理/運用の体制、拠点状況といった様々な観点の企業属性別に集計したMicrosoft Excel形式のデータを収録

毎年ご購入いただいているベンダや販社/SIerの皆様からの声

「自社の経験や個別顧客の声だけでは見えにくい、中堅・中小企業のITアプリ市場の動向を把握できる」
「ベンダ視点ではなく、有効回答1300社のユーザ企業から得た調査データで実態を確認できるレポート」
「現在進めている施策や販促とユーザ企業の課題やニーズを擦り合わせるための羅針盤として活用中」

価格: ￥225,000円（税別）全10分野を収録（1300社のユーザ企業データ＋企業属性別集計＋分析＆提言）
発刊日: 2026年10月20日
お申込み方法: 弊社ホームページから、またはinform@norkresearch.co.jp宛にご連絡ください
調査レポート案内: https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2026itapp_rep.pdf
調査レポートの詳細（サンプル属性、設問項目、集計データ例、試読版など）をご覧いただけます

各種の関連サービス

『中堅・中小向けIT市場分析サブスク』

ノークリサーチの様々な分析＆コンサルティングをサブスクで利用可能、IT企業の「走りながら考える」を支援

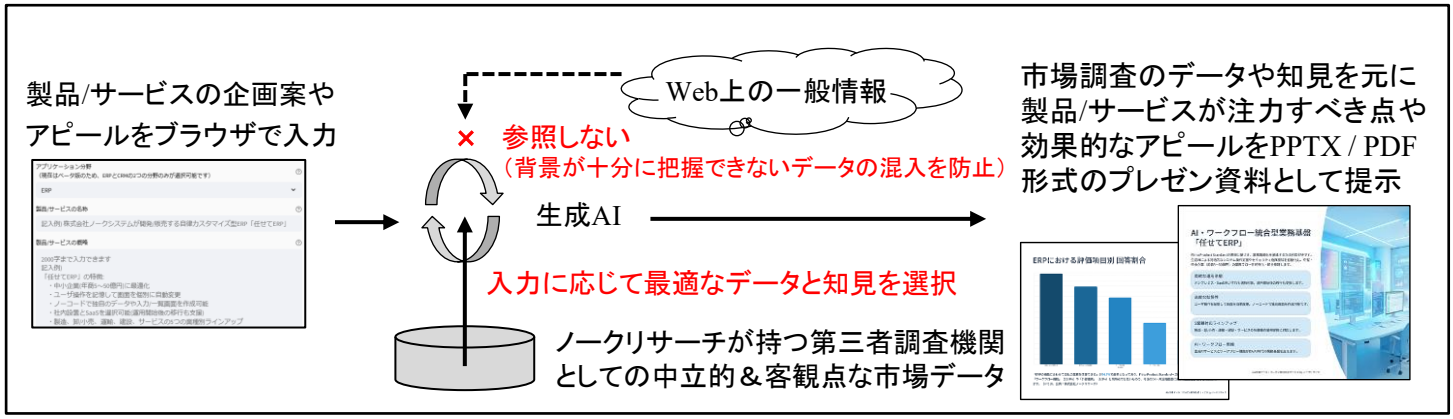
契約期間中に様々な分析/コンサルティングのサービスを自由に組み合わせて利用可能



詳細については右記をご参照ください https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2026subscription_rel.pdf

『AI×市場データ:プレゼン資料生成サービス』

製品/サービスの企画案や販促アピールを入力すると、関連する市場調査データを挿入したプレゼン資料（PDF/PPTX）を自動生成

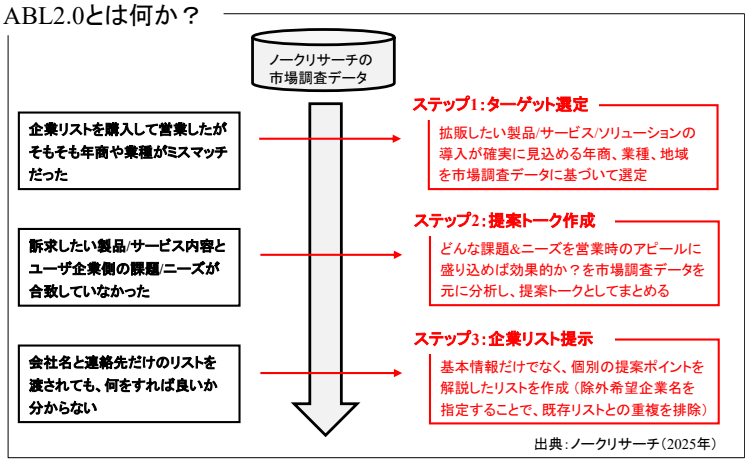


サービスの詳細については右記をご参照ください https://www.norkresearch.co.jp/pdf/pmc_service.pdf

『ABL2.0（Analysis Based Listing 2.0）』

市場調査データを元にターゲット選定、提案トーク作成、顧客候補リストを提示

ABL2.0とは何か？



サービス案内と実施の具体例を以下でご覧いただけます。
https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025ABL20_rel.pdf

ターゲットに沿った提案トークを含む企業リストの具体例

企業名	株式会社DEスタイル
設立年	1964年
資本金	5億円
売上高	45億円（2025年1月期）
決算月	1月
従業員数	436名（2025年2月現在）
上場有無	未上場
所在地	大阪府大阪市**区**町 1-1-1
ホームページ	https://www.destyle.**.**
メールアドレス	info@destyle.**.**
Webフォーム	https://www.destyle.**.**/contact.html
電話番号	06-****-****
業態と特徴	衣料素材の卸問屋として創業し、近年ではアパレルの企画/開発/生産/販売を一気通貫で担うビジネスを展開。 試作品段階では3Dモデリングを積極的に活用するなど、DXやSDGsに対する意識が高い。 参照ページ:https://www.destyle.**.**/profile.html
提案時のポイント	「AI需要予測を用いた在庫管理ソリューション」の提案トーク 解決が有効な課題: C_1:仕入先の倒産リスク C_2:勘や経験による管理 関連性の高いニーズ: D_3:センサによる入出庫記録 DXへの取り組みが進んでいるため、C_2の課題は既にクリアされており、D_3についても既に着手済みの可能性が高い。 素材の調達先には海外企業も多いため、地政学的な情報も含めてC_1を分析できるソリューションを提示することが有効。

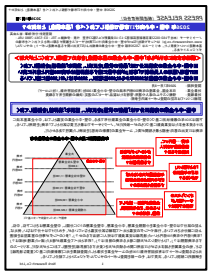
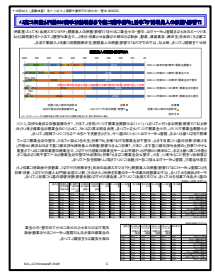
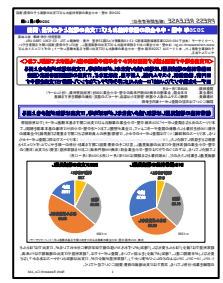
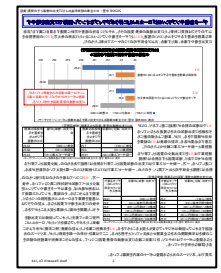
次頁へ続く

ご好評いただいている既刊の調査レポート

2026年版 中堅・中小企業の業績およびIT支出に関する基本構造レポート

そもそも中堅・中小企業は何社あるのか？ひとり情シスが多くなる年商や従業員数の境界線は？今後の経常利益とIT支出は増加/減少のどちらの見通しか？円安、輸出規制、システム内製、人材不足、法改正など、IT支出増減の背景/要因は何か？

【レポート案内】 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2026SMB_rep.pdf

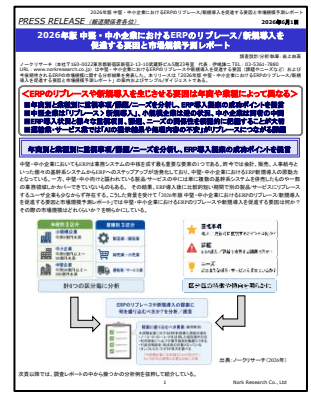
2026年版 中堅・中小企業におけるERPのリプレース/新規導入を促進する要因と市場規模予測レポート

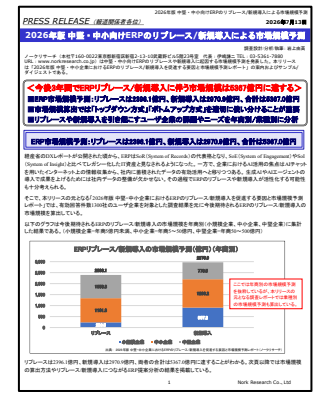
企業におけるAI活用が進むことで、データの重要性が再認識され、ERPのリプレース/新規導入が加速する。年商別および業種別にERPのリプレースや新規導入につながるユーザ企業の重視事項、課題、ニーズは何か？を分析＆提言、ERPの市場規模予測も算出。

【レポートの概要とダイジェスト】

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2026ERPBN_rel1.pdf

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2026ERPBN_rel2.pdf



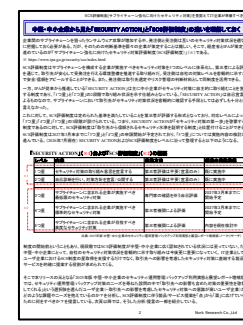


2025年版 中堅・中小企業のセキュリティ/運用管理/バックアップ利用実態と展望レポート 増補版

2026年度末にはSCS評価制度の開始が予定されており、IT企業にとっては、同制度を契機としたセキュリティ製品/サービスの拡販が焦点となる。本調査レポートでは3つ星26項目、4つ星43項目に及ぶSCS評価制度の要求事項とユーザ企業1300社が抱えるセキュリティの課題/ニーズを照合することで、「貴社が抱える***といった課題はSCS評価制度の***といった要求事項と一致しているので、優先度を上げて対策しましょう」といった提案が可能となる。

【レポート案内】 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025Sec_user_relex2.pdf





本リリースの無断引用・転載を禁じます。引用・転載をご希望の場合は下記をご参照の上、担当窓口にお問い合わせください。
引用・転載のポリシー： https://www.norkresearch.co.jp/policy/index.html

本リリースに関するお問い合わせ

株式会社 ノークリサーチ　　担当：岩上 由高
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-13-10　武蔵野ビル5階23号室
TEL 03-5361-7880 FAX 03-5361-7881
Mail: inform@norkresearch.co.jp
Web: www.norkresearch.co.jp